



- 皆様におかれましては平素より「次世代米国代表株ファンド(愛称:メジャー・リーダー)」をご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。
- さて、米国主要企業の2013年10-12月期決算が出揃ってまいりましたので、当ファンドに組み入れている次世代米国代表企業の決算状況についてお伝えしてまいります。

1. 米国株式市況の現状

■ 当ファンドの構成銘柄について

2014年1月末現在の当ファンドの構成銘柄(次世代米国代表企業)30銘柄と米国の代表的な株価指数であるダウ工業株30種30銘柄との関係を整理すると、以下の3つに分類できます。

A 独自銘柄(当ファンド保有&ダウ工業株30種非採用銘柄)

グーグル、アマゾン・ドット・コム、ハリバートン、CVSケアマーク、アップル、スターバックス、ダナハー、アムジェン、クアルコム、メットライフ、フェイスブック

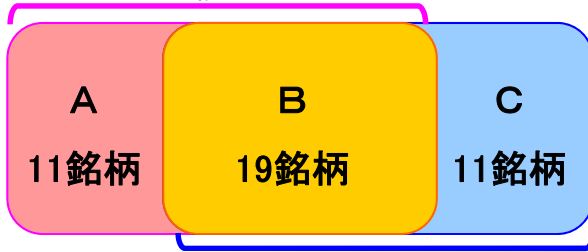
B 共通銘柄(当ファンド保有&ダウ工業株30種採用銘柄)

ボーイング、ゼネラル・エレクトリック、アメリカン・エクスプレス、ベライゾン・コミュニケーションズ、AT&T、ジョンソン・エンド・ジョンソン、プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー、ファイザー、ウォルト・ディズニー、イー・アイ・デュポン・ドウ・ヌムール、ザ コカ・コーラカンパニー、ナイキ、Visa、ゴールドマン・サックス・グループ、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー、ユナイテッド・テクノロジーズ、ユナイテッドヘルス・グループ、シェブロン、3M

C 非保有銘柄(当ファンド非保有&ダウ工業株30種採用銘柄)

キャタピラー、シスコシステムズ、エクソンモービル、ホーム・デポ、インテル、マクドナルド、メルク、マイクロソフト、トラベラーズ・カンパニー、ウォルマート・ストアーズ、IBM

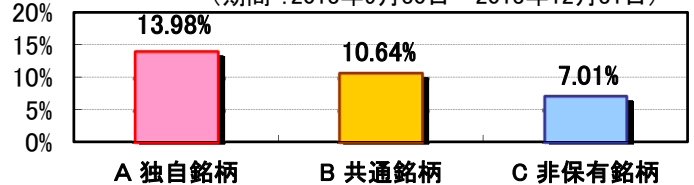
当ファンド構成銘柄(A+B)



NYダウ構成銘柄(B+C)

各銘柄の2013年10-12月期中の騰落率の平均

(期間:2013年9月30日～2013年12月31日)



・騰落率の平均は、各銘柄の2013年10-12月期中の騰落率を単純平均して算出しています。

(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

■ 米国企業の決算は好調。業績相場上昇への期待が高まる

2014年1月30日現在、S&P500指数採用企業の2013年10-12月期決算は、前年同期比で9.4%の増益となっています。これは過去2年間で最も高い増益率です。新興国通貨を巡る市場の混乱などから、足下の米国株式市況は調整局面となっていますが、米国市場のファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は着実に改善しています。現在は市況の調整を経て過熱感も払拭されつつあり、企業業績の好転を受けた相場の上昇が期待されます。

■ 独自銘柄①:グーグル、フェイスブックが好調な決算を発表

スマートフォン、タブレットPC等のモバイル端末普及が進んでいます。モバイル環境で広告、コンテンツ配信などを行い、課金につながる事業モデルを確立し得た企業が好業績をあげています。

■ 独自銘柄②:ダナハー、アムジェン、クアルコムも底堅い決算を発表

難治性疾患の治療薬の必要性の高まりの恩恵を受けるアムジェン、汚水処理などの環境対策への需要拡大により事業を拡大するダナハーなど、社会の大きな潮流が、これら企業の好業績の背景となっています。クアルコムも次世代技術であるLTEへの移行を背景に2014年後半の収益拡大の見通しを示しました。

■ 独自銘柄③:アップルの2014年1-3月期の売上見通しは失望を誘う

売上見通しへの失望から、アップルの株価は決算発表後に大きく下落しました。しかし、チャイナ・テレコムと提携したことにより今後は中国での売上拡大が期待されること、従来の売上を中心であった個人に加え、企業向けの売上拡大が期待されること、コンテンツ配信、オンライン決済などの新しい分野が収益に貢献してくることなどを考えると、一時的な成長ペースの減速に過ぎないと思われます。今後の同社の新たな事業展開には、大きな期待が集まっています。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■上記グラフは過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。■上記見通し分析は作成時点の見解を示したものであり、将来の市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

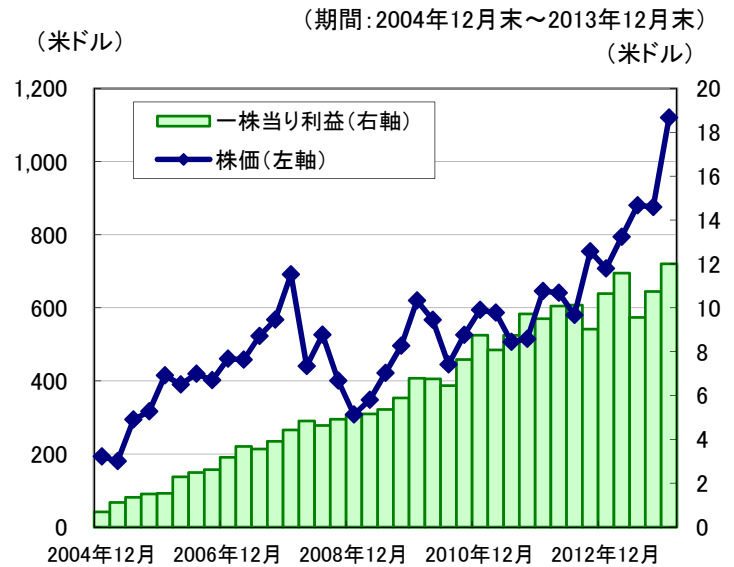
次世代米国代表企業① グーグル 業種:情報技術

- 売上高 : 135.5億米ドル
(事前予想 134.1億米ドル)
- 一株当り利益 : 12.01米ドル
(事前予想 12.25米ドル)

- ① ここ数年の投資が実り、モバイル事業が軌道にのってきました。広告単価が対前年比11%下落したものの、広告へのクリック件数は31%伸びているため、売上は高い伸びを示しています。
- ② アプリ、コンテンツの販売などの非広告事業の売上が全体の1割に達しつつあり、収益源の多様化が進んでいます。
- ③ かつてモトローラから買収した携帯電話事業をレノボ社に売却し、本業注力の意思を明確に示しました。

・売上高、一株当り利益は2013年10-12月期の数値です。
・事前予想はブルームバーグ社が公表している数値を掲載しています。

株価と一株当り利益の推移(四半期)



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

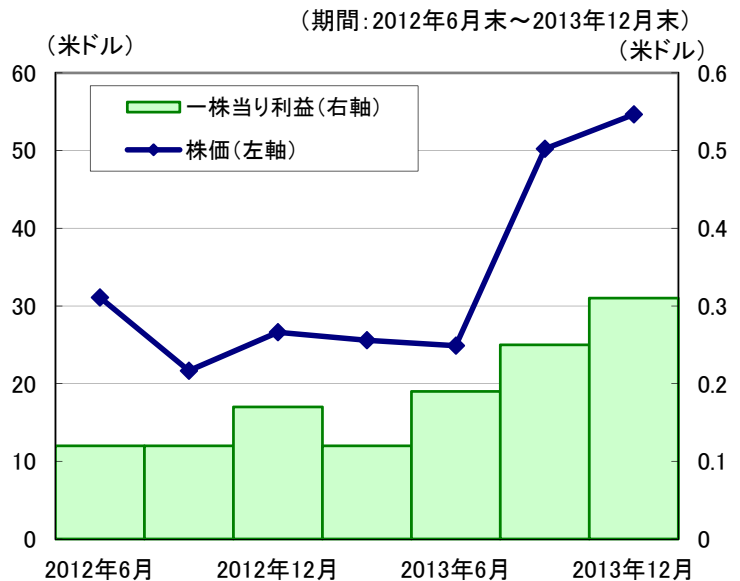
次世代米国代表企業② フェイスブック 業種:情報技術

- 売上高 : 25.9億米ドル
(事前予想 23.5億米ドル)
- 一株当り利益 : 0.31米ドル
(事前予想 0.27米ドル)

- ① 売上、利益、ユーザー数などの全てにおいて事前予想を上回る決算を発表しました。
- ② 特に注目されるのは、モバイル関連の売上が全体の53%にも達している点です。モバイル化への対応は、全てのインターネット関連企業にとり最重要経営課題となっていますが、いち早くモバイル化に対応し、課金できる事業モデルを確立し得たのが同社です。

・売上高、一株当り利益は2013年10-12月期の数値です。
・事前予想はブルームバーグ社が公表している数値を掲載しています。
・フェイスブックは、2012年5月18日にナスダック市場に上場しています。
・株価と一株当り利益は、同社の上場開始後の2012年6月末のデータより掲載を開始しています。

株価と一株当り利益の推移(四半期)



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■上記グラフは過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。■上記見通しのない分析は作成時点の見解を示したものであり、将来の市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

次世代米国代表企業一覧① (10-12月決算発表企業)

	企業	収益	内容
一般消費財・サービス	アマゾン・ドット・コム	売上: 255.9 (予想: 260.8) EPS: 0.51 (予想: 1.23)	売上、利益とも市場予想を未達。特に利益は、配送倉庫の増設、受注・発注・入金などの管理運営業務などのコストが嵩んだ。一方で売上は米国国内では堅調だったものの海外での売上が前年同期比で成長率が鈍化。コスト面については更なる成長への布石を打っているものと評価する。
	スターバックス	売上: 42.4 (予想: 42.9) EPS: 0.69 (予想: 0.69)	米国での既存店売上は苦戦したが、中国とアジア太平洋地域での既存店売上は前年比8%増、総売上では同25%を超える成長を達成。2014年度も堅調な成長が期待できると会社側はコメントし、積極的な中国出店や焼き菓子などの品揃え強化、お茶専門店出店などから高い成長力は維持。
エネルギー	ハリバートン	売上: 76.4 (予想: 75.6) EPS: 0.93 (予想: 0.89)	ラテンアメリカのプロジェクトの遅れから短期的には同地域において過剰設備の状態が発生するも、2014年には回復の見込み。米国内のシェールガス関連の過剰設備も2014年には改善の見込み。全体として、2014年後半以降の収益拡大を示唆する内容。
	シェブロン	売上: 561.6 (予想: 611.0) EPS: 2.57 (予想: 2.57)	エネルギー価格の低下から利益は頭打ち。今年も供給量の伸び悩みが予想される。新規プロジェクトへ積極投資を行うことから、コストは上昇傾向にある。
金融	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	売上: 241.1 (予想: 240.8) EPS: 1.40 (予想: 1.37)	消費者・地域銀行部門は増益を確保したものの、法人・投資銀行部門の利益縮小により全体では減益となった。訴訟引当金の繰入額が減少したことは前向きに評価できる材料。
	アメリカン・エキスプレス	売上: 85.5 (予想: 85.5) EPS: 1.25 (予想: 1.25)	クレジットカードの取扱高は全地域で加速、なかでも日本や南米での伸び率が高かった。米銀大手ウエルズ・ファーゴに加えてUSバンコプとも提携を発表、2014年中に両社からアメックス・ブランドのカードが発行される予定であり、カード利用の更なる拡大に期待。
	ゴールドマン・サックス・グループ	売上: 87.8 (予想: 77.5) EPS: 5.13 (予想: 4.18)	株式を中心に引受業務が好調であったほか、人件費などのコスト抑制を進めたものの、債券や通貨、商品などのトレーディング収益が低迷した。アドバイザリー業務では見込み案件が増加しており、今後の収益への貢献に期待が持てる。
資本財・サービス	ダナハー	売上: 52.7 (予想: 52.0) EPS: 0.96 (予想: 0.95)	売上、利益とも事前予想を上回る決算内容。前四半期に引き続き、医療機器部門の診断・検査機器において高い製品競争力から競合他社より市場シェアを奪っており、また、買収した企業の合理化策推進によって収益性も改善。
	ゼネラル・エレクトリック	売上: 403.8 (予想: 400.6) EPS: 0.53 (予想: 0.53)	産業向け部門の収益性は悪化したものの、四半期決算の受注残は過去最高となった。旺盛なシェールガス開発を中心としたオイル&ガス部門やドバイ航空ショーでの航空機エンジンの受注獲得から良好な決算発表となった。
	ユナイテッド・テクノロジーズ	売上: 167.6 (予想: 170.8) EPS: 1.58 (予想: 1.53)	収益性が悪い救助ヘリコプターの顧客への受渡しを延期させたことから、売上は市場予想を下回り、一方でEPSは上振れた。受注残は民間向け航空機用のスペアパーツなどやオーティス(エレベーター部門)の新機種が大きく寄与、好調な受注残を確保した。
	ボーイング	売上: 237.9 (予想: 227.1) EPS: 1.88 (予想: 1.57)	生産能力の増強に伴い、「787」を中心に民間航空向け納入量は増加。また、軍事・宇宙部門では収益性の高い「F15」戦闘機、人工衛星の納入から利益は市場予想を大幅に上回った。ただし、会社側の2014年度業績見通しは市場予想を下回る結果に。
	3M	売上: 75.7 (予想: 77.1) EPS: 1.62 (予想: 1.62)	売上は、米国、欧州では増収となったが、アジア太平洋、中南米での工業品を中心とした需要減退により減収となり、市場予想を下回った。一方、利益は生産性の向上、収益性の高い製品の売上増から市場予想と一致。

* 売上高は億米ドル単位、EPS(一株当り利益)は米ドル単位。(予想)はブルームバーグ社の事前予想。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

・ 上記は2014年1月31日現在でファンドに組み入れられている米国次世代代表企業のうち、米国時間2014年1月31日までに2013年10-12月期の決算発表を行った銘柄について掲載しています。なお、コメントは作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

次世代米国代表企業一覧② (10-12月決算発表企業)

	企業	収益	内容
情報技術	アップル	売上:575.9 (予想:574.8) EPS:14.50 (予想:14.07)	売上、EPSともに市場予想を上回ったものの、iPhone出荷台数が市場予想を下回った。iPad出荷台数は市場予想を上回った。買い替えサイクルの長期化、9月に発売したiPhone 5Sの部品不足などを会社側が指摘した。2014年1-3月四半期の売上ガイダンスは市場予想を下回った。
	フェイスブック	売上:25.9 (予想:23.5) EPS:0.31 (予想:0.27)	本文参照。
	クアルコム	売上:66.2 (予想:66.8) EPS:1.26 (予想:1.18)	EPSは市場予想を上回ったものの、売上は若干市場予想未達となった。2014年1-3月四半期の収益見通しも市場予想以下となったものの、会社側は年後半にかけての回復について自信を示した。LTE規格のスマートフォンの立ち上がりにつれて同社の売上は強含むと、会社側は予想。
	Visa	売上:31.6 (予想:31.3) EPS:2.20 (予想:2.16)	事前予想を若干上回る内容の決算。海外部門の売上が、キャッシュレス化の流れを背景に順調に伸びている。ドル高の影響が海外売上にあったものの、EPSは市場予想を上回った。会社側は改めて株主還元の一環としての自社株買い実施を強調しており、これも同社のEPS成長を支えると思われる。
	グーグル	売上:135.5 (予想:134.1) EPS:12.01 (予想:12.25)	本文参照。
生活必需品	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	売上:222.8 (予想:223.4) EPS:1.21 (予想:1.20)	スキンケアを中心としたビューティ部門の不振から売上は市場予想を下回ったものの、お風呂洗剤、ルームクリーニングなどの住宅関連や幼児向け紙おむつ(パンパース)の販売が新興国を中心に好調。利益は不採算商品からの撤退など合理化策から市場予想を上回った。
素材	イー・アイ・デュボン・ドゥ・ヌムール	売上:77.5 (予想:77.7) EPS:0.59 (予想:0.55)	売上は、防弾ベストなどの素材部門が不振で市場予想をやや下回った。前四半期に引き続き米国やラテンアメリカでの殺虫剤の需要増、種子の販売価格上昇などから農業部門が好調に推移し、二桁の増収を達成。加えて50億ドルの自社株買い計画を発表。
電気通信・サービス	ベライゾン・コミュニケーションズ	売上:310.7 (予想:310.5) EPS:0.66 (予想:0.65)	事前予想を小幅上回る決算であった。携帯電話事業は競争環境が激化するなかで、新規加入者数を伸ばすとともに一人当たりの利用金額も増加。光ファイバー回線をベースとするインターネットやビデオなどのサービスも伸びている。
	AT&T	売上:331.6 (予想:330.9) EPS:0.53 (予想:0.51)	売上・利益ともに予想を上回ったが、携帯電話事業における一人当たり利用金額は下位企業による追い上げもあり、同業のベライゾン・コミュニケーションズと比較するとやや伸び悩んでいる。
ヘルスケア	ユナイテッドヘルス・グループ	売上:311.2 (予想:312.2) EPS:1.41 (予想:1.41)	売上は、やや市場予想を下回ったもののEPSは市場予想と一致。政府の医療保険制度見直し発表(補助金の削減)から、経営陣が収益見通しに関して慎重なコメントを行った。
	ジョンソン・エンド・ジョンソン	売上:183.6 (予想:179.6) EPS:1.24 (予想:1.20)	前半期に続き製薬事業の好調さが目立つ決算となった。新薬の売上の伸びが目立った。一方で、消費関連製品事業、医療機器事業は成熟化の度を深めつつある印象。バイオ関連技術を活用した新薬開発分野の成長力を改めて感じさせる決算。
	アムジェン	売上:50.1 (予想:48.2) EPS:1.82 (予想:1.69)	事前予想をやや上回る内容の決算内容。各バイオ薬ごとの売上もほぼ事前予想通りとなった。会社側は、既存薬における今後の競合の強まりを予想。しかしながら、同時に発表されたいくつかの新薬の承認に向けてのプロセスは着実に進捗しており、将来の収益についての確度が高まった。
	ファイザー	売上:135.6 (予想:133.7) EPS:0.56 (予想:0.52)	既存薬のLyrica、Effexorの売上が好調。新薬の開発も順調に進展しているとコメント。成熟事業を分社化すると示唆も会社側からあり、株主価値増大への意識の高さを感じられた。

* 売上高は億米ドル単位、EPS(一株当たり利益)は米ドル単位。(予想)はブルームバーグ社の事前予想。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

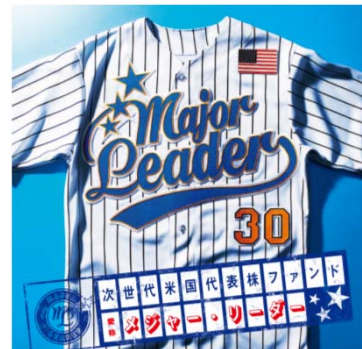
・上記は2014年1月31日現在でファンドに組み入れられている米国次世代代表企業のうち、米国時間2014年1月31日までに2013年10-12月期の決算発表を行った銘柄について掲載しています。なお、コメントは作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

次世代米国代表株ファンド(愛称:メジャー・リーダー)

追加型投信/海外/株式

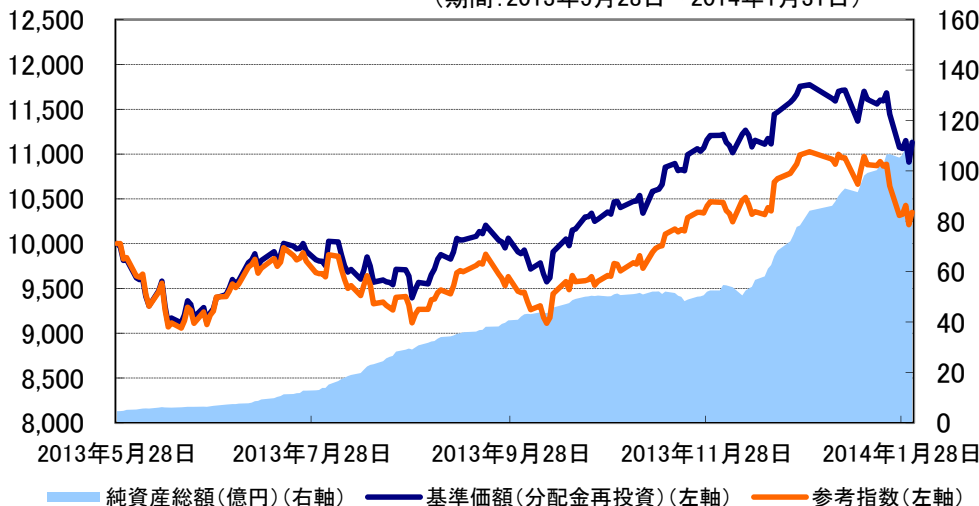
ファンドの特色

- 1 米国の株式が実質的な主要投資対象です。
- 2 主として米国において取引されている次世代の米国経済の主役となり得ると委託会社が判断した企業の株式に投資を行います。
- 3 外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- 4 年4回の決算時(3・6・9・12月の各7日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。



基準価額(分配金再投資)の推移

(期間:2013年5月28日~2014年1月31日)



参考指数はダウ・ジョーンズ工業株価平均(円換算ベース)です。ダウ・ジョーンズ工業株価平均(ダウ工業株30種)とは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する30銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「NY(ニューヨーク)ダウ」、「ダウ工業株30種」などと呼ばれています。当ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、ダウ・ジョーンズは、その運用成果および当ファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。

■基準価額(分配金再投資)は設定日、参考指数は設定日翌営業日を10,000として指数化しています。■基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。■上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。■将来の分配金のお支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

投資リスク

主な投資リスクとして、組入株式の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク等があります。

- 価格変動リスク** 企業業績や市場・経済の状況等を反映して組入株式の価格が下落することがあります。また、原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を大きく受けます。
- 信用リスク** 組入株式の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により、組入株式の価格が下落することがあります。
- 流動性リスク** 市場に十分な需要や供給がない場合等に、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。投資信託は預貯金と異なります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。／販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。／投資信託は、販売会社が申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。／投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的として三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、勧誘を目的に作成したものではありません。／当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。／当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。／当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。■市場動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

お客さまにご負担いただく費用

購入時	購入時手数料	購入価額×3.15%*(取扱3%)を上限として販売会社が定める料率 ※消費税率が8%になった場合は、 3.24% となります。
換金時	信託財産留保額	ありません。
保有期間中	運用管理費用(信託報酬)	純資産総額×年 1.5225% *(取扱年1.45%) ※消費税率が8%になった場合は、年 1.586% となります。
	その他の費用・手数料	売買委託手数料等、監査費用、外国での資産の保管等に要する費用等を信託財産からご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

・お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等) 三菱UFJ投信株式会社
 受託会社(ファンドの財産の保管・管理等) 三菱UFJ信託銀行株式会社
 販売会社(購入・換金の取扱い等) 後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用 三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

